



Bethel Hospital 通信

2023 年 4 月号 (第 237 号)

松山ベテル病院 松山市祝谷6丁目1229番地 Tel089-925-5000

ホームページ <https://www.bethel.or.jp/>

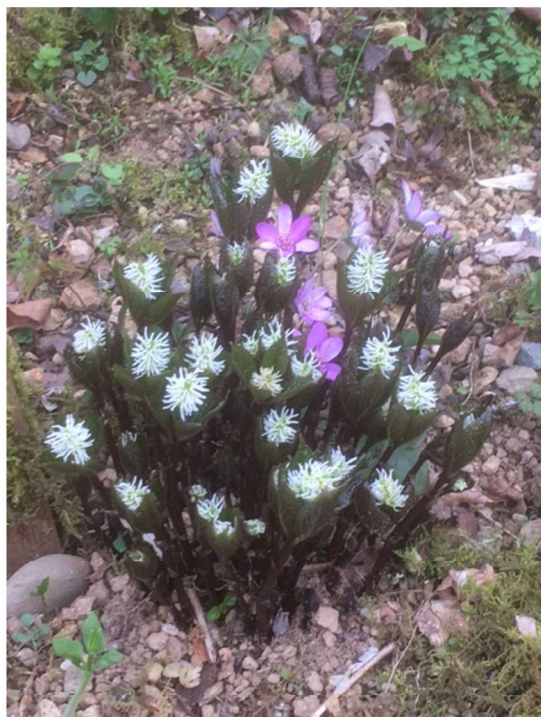
より良い病院を目指して

皆さんこんにちは。4月から医局長を承ります佐々木徹と申します。どうか宜しくお願い申し上げます。私は松山ベテル病院に奉職して23年となります。病院の成長と共に自分自身も患者さま・ご家族との経験等から成長しているかな？とは思っています。

病院の成長とは何でしょうか？単に建物やスタッフの規模が大きくなったり病室や施設が綺麗に便利になったり、最新の医療機器やIT・AIが充実しているという事だけではないでしょう。やはりすべてのスタッフ(医療スタッフ、co-medicalスタッフ、事務系のスタッフを含む)の質(患者さま・ご家族に対する基本的な心構え・態度や専門職としての知識・技術)が大事かと思われます。その点、当院では各部署の教育連携体制も充実し、各スタッフは常に自分を磨く努力をしているのではないのでしょうか？患者さまに必要な治療は受けて頂きながらも(例えば、認知症の患者さまが肺炎を発症ししっかり治すためには点滴治療が必要であるが点滴をすると暴れたり点滴を抜いてしまう等の場合、ご家族ともじっくり話し合い、患者さま・ご家族の人生観・価値観を尊重しどういう治療をしていくかを一緒に考えていきます)、キリスト教の「愛の精神」で優しく包み込むようなケアを行っていきます。

私自身は患者さまやご家族とお話する時、柏木哲夫先生が言っておられた「3つのK」を大事にしています。「傾聴(㊦イチョウ)」、「相手の感情(㊦ンジョウ)に焦点を当てる」、「相手の価値観(㊦チカン)を尊重する」のKです。この23年間ホスピス病棟等の患者さま・ご家族とお付き合いさせて頂いて思ったことは、「人間の生き方というのは本当に各人各様で価値観がそれぞれ違う中で皆精一杯生きておられ、この生き方が正解ということはない・・・。その人の最後にそれまで生きて来られた『生き様』が見えてくる」ということです。入院後、ご本人がとても大事にしておられること(価値観)を把握し、治療・ケアに繋げていくことが大事かと思っています。

この混迷の時代、コロナ(パンデミック)、戦争、地球温暖化・異常気象・大地震、エネルギー・食糧危機等と人類を取り巻く環境はこれからさらに激変すると予想されます。その中を力強く生き抜いていくためには、IT・AIが今後増々発達する中で人間個人は押しつぶされそうになるちっぽけな存在であると認識した上で、謙虚に一步一步自分が出来ることをやっていくしかないと思います。医療においては、何より「相手を思いやる心(共感)」(IT・AIには無い)とそれを行動に移すことが大事かと思われます。



(ホスピスケア医・内科医 佐々木 徹)



四十九日の頃に



先日、ご自宅で旅立たれた O さんのお宅へ伺いました。いつもの部屋にベッドはありませんが、写真や絵はいつもの場所にありました。娘さんと一生懸命に O さんを支えた奥様と、療養中のことやご家族のことなど、色々な話をしました。なんと、その日のご夫妻の結婚記念日。ご夫妻のなれ初めまで教えていただきました。きっと、心優しい O さんが、奥様の元に私達を呼んでくださったのだと思いました。その後、O さんが自主制作し葬儀でながされたというメモリアルムービーも拝見しました。「また、来世でお会いしましょう。」と、落ち着いた声で締めくくられていました。

旅立ちの2週間前まで絵筆を持ち、絵を描かれていた O さん。私のお気に入りには、ココペリの絵。ココペリは、アメリカ・インディアンの精霊で、笛を吹くと草木が芽吹き動物たちは子供が生まれると言われる、豊穰、子宝、幸せの神様。いつも笑顔で明るく話をされた O さんは、まさにココペリのようなでした。ワインや絵、歌やお喋りが大好きなダンディな O さんの診療は、自分の体とのつきあい方、しなやかに生ききる姿、ご家族の大きな支えなど、教わることの多い大切な時間でした。O さん、ありがとうございました。また来世でお会いしましょう。



パイナップル



ココペリ



東雲神社の椿寒桜

「グリーフケア」という言葉をご存じですか。「グリーフ」とは、喪失・死別などによる深い悲しみを意味します。「グリーフケア」とは、悲嘆のケアとも言われます。

私も数年前に父を看とった後、父の死に向き合えない空白の時間が長くありました。時間の経過とともに、悲しみや淋しさは変化し、「ああすれば良かった。こうすれば良かった。」と自分を責めることもありました。そんな時、エンドオブライフ・ケア協会の「折れない心を育てる いのちの授業」の講師認定トレーニングを受けました。これは、①苦しみから支えに気づくこと、②苦しむ人を前に私にできること、③自分を認め大切にすることを一緒に考え学ぶ授業です。父の死という解決できない苦しみの中で、私を気遣ってくれる子供達やただ話を聴いてくれる友人、「お前がいて良かった。」と言ってくれた父の言葉、いつもここにある自然など、改めて多くの支えに気がつきました。ただ話を聴いてくれる人がいるということにとっても救われました。

悲嘆からの回復は、ひとりひとり違います。私達にできることは、旅立った方を大切に思い、ご家族の話を大切にお聴きすることと思っています。今年2月から、召天者追悼記念会が再開されています。またお会いできますように。 ※一部、ブログの内容と重複します。

(ホスピスケア医 奥村 淳子)



苦い薬と甘い薬



「良薬は口に苦し」、孔子の言葉にもある通り、苦い薬は古来より使われてきました。例えば、日本三大民間薬(ゲンノショウコ、センブリ、ジュウヤク)は、どれも苦い薬ばかりです。

ゲンノショウコ(現証拠、験証拠)は、下痢止めに服用するとすぐに効果が現れることから名づけられました。

センブリ(千振)は、熱湯に浸し「千回振って」煮出したとしてもまだ苦みが残ることから名付けられました。また、センブリの別名を当薬(トウヤク)といい、まさに当たる薬=良く効く薬とも言われ、現在は育毛剤にも配合されています。



ジュウヤク(十薬)とはドクダミの生薬のことです。白い花に見える部分は実は苞(つぼみを包んでいた葉)で、花の色は黄色です。名前の由来は、傷や痛み^{ほう}に効くから「毒痛み」になったという説や、「毒矯^たみ(毒をためる=なおす、矯正する)」から来たという説もあります。ドクダミの特異な臭気のもととなる物質は、抗生物質のペニシリンよりも強力な抗菌作用があるといわれており、生のドクダミは傷口の化膿止めやにきび、水虫に対する殺菌効果があります。一方、乾燥させるとその効果を失い、臭気もなくなります。乾燥させ生薬となったジュウヤクの薬効(利尿や毛細血管の強化作用、緩下、消炎作用)は臭気のもととなる物質とは別の成分に由来しています。「重薬」と書いて「ドクダミを陰干ししておけば重宝する」とも「十薬」と書いて「十の薬効がある」または「十字の花(4枚の白い苞)であるため」とも言われています。

苦い薬はまだあります。苦いといえ^{だらにすけ}ば陀羅尼助です。主に胃腸薬として用いられ、伝承によると1300年前に役行者^{えんのぎょうじゃ}が作ったとされ、陀羅尼丸^{だらにがん}の名称で親しまれている所もあります。かつて僧侶が修行で陀羅尼を唱える際に口に含み、苦みで眠気を防いだことが名前の由来と言われています。主薬はオウバク(黄柏)で、基原であるキハダの樹皮が黄色いことからその名が付けられました。

最後に、甘い生薬について少し触れておきます。その名もカンゾウ(甘草)です。字の如く甘味料として広く使われており、用途は味噌からシャンブーまで多岐に渡ります。その生薬としての主な薬効は去痰・鎮咳^{きょたん ちんがい}・消化性潰瘍治療薬ですが、漢方薬の7割に使用されている重要生薬です。また、ヤマアジサイの変種・アマチャ(甘茶)も、字の如く甘いお茶として、灌仏会(釈迦の誕生日)^{かんぶつえ}に用いられます。甘味料だけではなく抗菌作用があるため、矯味剤や口腔清涼剤としても用いられています。「良薬は口に苦し」とは限らないですね。



外来診療日のお知らせ

◎豊田 泰孝 医師（精神科・心療内科）

4月5日（水）、4月19日（水）

◎多田 聡 医師（神経内科）

4月13日（木）、4月27日（木）

◎吉田 暉 医師（神経内科）

4月6日（木）、4月20日（木）

◎加藤 喜久美 医師（内科）

当面の間、休診いたします。

◎尾崎 絵美医師（内科）

当面の間、休診いたします。



召天者追悼記念会を開催しました

この会は、天に召された方を偲んで一緒に祈り、スタッフとご遺族の皆さまとで語り合う時間となっています。新型コロナウイルス感染拡大防止のため、2020年からは開催を延期していましたが、3年ぶりにやっと開催することができました。時間も短く開催側の不安もありましたが、直接主治医や担当看護師と話して「とても密な時間でした。」と感想をいただきました。ご遺族の皆さまと話をすることで、スタッフ一同、笑顔や元気をもらっています。今後も少しずつ規模を拡大して、以前のように開催していく予定です。

皆さまとの心のつながりをこれからも大切にしていきたいと思いますので、今後ともどうぞよろしくお願いいたします。



- ・投句箱を外来・各病棟に設置しています。皆様のご投句をお待ちしております。
- ・『ベテル通信』について、ご意見やご要望を「ご意見箱」へお寄せください。
- ・掲載中の写真についてはご本人、ご家族様の許可を得ています。

発行日 2023年3月23日